奈良町のちょっといいところを見て知る秋の1週間
～きたまち・ならまち・高畑・京終～
2022年7月14日発行

奈良町見知ル実行委員会 Newsletter No. 3

さらなる充実を目指して 今年度のイベントの検討が進んでいます！

倉橋 みどりさん（実行委員長・きたまちコンセント）

いよいよ全体スケジュールの見通しが立って、事業のイメージがくっきりしてきました。

第三回の実行委員会はいつもより出席者が少なかったですが、その分ざっくばらんに意見交換ができました。かっちりとしながらも、互いに意見を出しやすいのがこの実行委員会の良いところです。

今回はあそぶならの学生さんが若い発想力を発揮して、たくさんのアイディアを提案してくれました。議論の中では世代間のギャップが生じることもあります。しかし、今回学生の皆さんが提案に込めてくれた思いは、実行委員会の場で共有されていたように思います。世代を問わず学生の皆さんも発言しやすい、寄合のような実行委員会を目指していきたいですね。

野村 修司さん（にゃらまち猫祭り）

私はふだん、スマホなど一切使っていない分、実際に活動している人の生の声を聞くことを大切にしてきました。奈良町見知ルに来られる方も、ぜひ奈良町の空気感や風を直接感じてもらいたいですね。

奈良町はお店も沢山あるんですが、それに加えて素敵なものやひと、魅力で溢れています。宝探しをするように町を歩いてみたら、思いがけない発見に出会えるかもしれません。人それぞれ、自分にしか見つけられない発見を探すように、奈良町を歩いて楽しんでもらいたいです。

松岡 みきさん（奈良近代洋風建築研究会）

今年度の奈良町見知ルでは、きたまちの建築の価値にもっと触れてもらうために、奈良近代洋風建築研究会としてツアー企画を提案しました。奈良には古民家が多く残っていますが、それだけではありません。ぜひ、奈良の近代建築の魅力について多くの人に知ってもらいたいです。

奈良近代洋風建築研究会は、二〇二〇年からツイッターでゆるっと発信活動を続けているのですが、コロナ禍の影響で活発に活動することができていませんでした。この奈良町見知ルをきっかけに近代建築の魅力をより多くの人に広めていきたいです。

奈良町見知ル実行委員会 Newsletter No.3
２０２２年7月14日発行
編集責任者：杉山 晋平（天理大学）
取材・執筆：東 拓実、田辺 七海（以上、天理大学）
連　絡　先：shimpei@sta.tenri-u.ac.jp